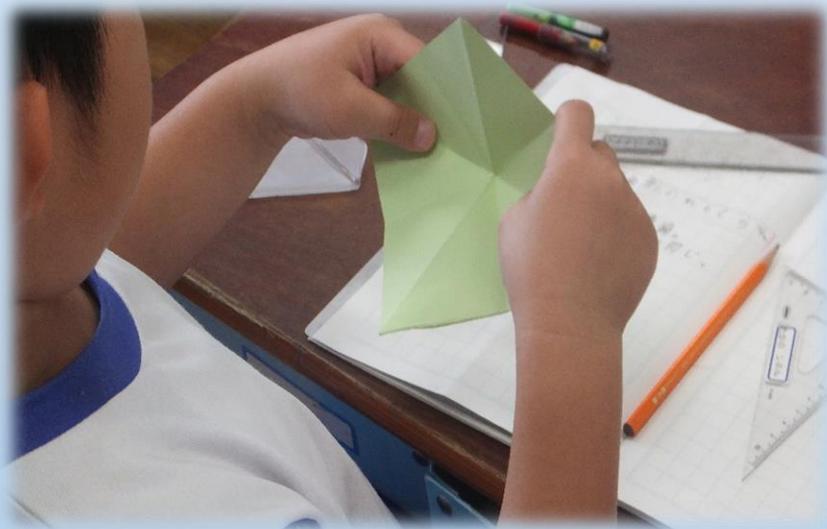


平成29年度 新教育課程説明会 小学校学習指導要領解説 ～算数～



平成29年 8月23日（水）
於：太田市宝泉行政センター
東部教育事務所 学校教育係
主任指導主事 松崎 智幸

第1章 総説 より

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、
絶え間ない技術革新等

人工知能(AI)
の
飛躍的な進化等

小P6 中P6

予測が困難な時代

○算数科・数学科では...

[子供たちが]
・様々な**変化**に積極的に
向き合い、他者と**協
働**して**課題**を**解決**して
いくことなどができるよ
うにしていく

・小学校算数科(中学校数学科)においては、数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、(現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過程を学習過程に反映させることを意図して)**数学的活動の(一層の)充実**等を図った。

・社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、**統計的な内容等の改善・充実**を図った。

新学習指導要領解説
算数編のポイント

押さえておきたい

4つのキーワード



押さえてたい4つのキーワード

1, 育成を目指す資質・能力

2, 数学的な見方・考え方

授業改善

4, 学習過程

3, 数学的活動

押さえてたい4つのキーワード

1, 育成を目指す資質・能力

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力・人間性等

2, 数学的な見方・考え方

- ~を働かせて
- ~に着目して

3, 数学的活動

- 問題発見や問題解決の過程への位置づけ

4, 学習過程

- 日常生活や社会の事象
- 数学の事象

1, 育成を目指す資質・能力

第1章 1 (2)

○育成を目指す資質・能力【教育課程全体】

ア 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」

イ 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成)」

ウ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養)」

1, 育成を目指す資質・能力

第2章 第1節 1

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】



数学的な見方・考え方を働かせ、
数学的活動を通して…

【知識及び技能】

(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。(小)

(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(中)

1, 育成を目指す資質・能力

第2章 第1節 1

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】



数学的な見方・考え方を働かせ、
数学的活動を通して…

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。(小)

(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(中)

1, 育成を目指す資質・能力

第2章 第1節 1

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】



数学的な見方・考え方を働かせ、
数学的活動を通して…

【学びに向かう力】

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。(小)

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

(中)

1, 育成を目指す資質・能力

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】

各学年の目標及び内容では…



第3章 各学年の目標及び内容

第1節 第1学年の目標及び内容

1 第1学年の目標

(1) 知識及び技能→内容のアに記述

(2) 思考力・判断力・表現力等→内容のイに記述

(3) 学びに向かう力→各学年の目標としてまとめて記述

2 第1学年の内容

[C 測定]

C(1) 量と測定についての理解の基礎

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

1, 育成を目指す資質・能力

第3章 第1節 1

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】 各学年の目標及び内容では…

1 第1学年の目標

(1) 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする

(2) ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う

(3) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力

1, 育成を目指す資質・能力

第3章 第1節 2C

○育成を目指す資質・能力【算数科・数学科】

各学年の目標及び内容では…

C(1) 量と測定についての理解の基礎

(1) 身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。

(イ) 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。



知識
及び
技能

思考力・
判断力・
表現力等

2, 数学的な見方・考え方

第1章 1 (2) ③

○深い学びの鍵としての「見方・考え方」

「どのような視点で物事を捉え, どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力等

「数学的な見方・考え方」を働かせて

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第1節 1 (2) ①

○数学的な見方・考え方を働かせる意義

数学的に考える資質・能力の育成に当たっては、算数科の特質に応じた見方・考え方が重要な役割を果たす。算数の学習において、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して課題を探究したりすることにより、生きて働く知識の習得が図られ、技能の習熟にもつながるとともに、日常の事象の課題を解決するための思考力、判断力、表現力等が育成される。そして、数学的に考える資質・能力が育成されることで、「数学的な見方・考え方」も更に成長していくと考えられる。

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第1節 1 (2) ①

数学的な見方

数学的な考え方

り、「数学的な見方・考え方」は、算数の学習において、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考をしていくのかという、物事の特徴や本質を捉える視点や、思考の進め方や方向性を意味することとなった。

「数学的な見方・考え方」のうち「数学的な見方」については、事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えることであり、また、「数学的な考え方」については、目的に応じて図、数、式、表、グラフ等を活用し、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら統合的・発展的に考えることである。これらから、算数科における「数学的な見方・考え方」とは、「事象を数量

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第1節 1 (2) ⑤

統合的に考察する

発展的に考察する

「統合的に考察する」ことは、異なる複数の事柄をある観点から捉え、それらに共通点を見いだして一つのものとして捉え直すことであり、算数の学習で大切にすべきものである。例えば、次のような視点から発展的に考察を深める場面では、統合的に考えることが重要な役割を果たしている。

- ・ 2, 4, 6…から共通の性質を見いだして「偶数」という一つのものにまとめるというように集合から捉える。
- ・ 整数の乗法の意味や形式を、小数、分数の場合にも考えられるように拡張して捉える。
- ・ 乗法九九を構成する際に、1の段を加えて、九九表が完全になるように補完して捉える。

また、算数の学習で「発展的に考察する」とは、ものごとを固定的なもの、確定的なものと考えず、絶えず考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとすることである。数量や図形の性質を見いだして考察する際、既習の事項を適用すればすむ場合もあれば、新しい算数を創ることが必要な場合もある。特に、後者の場合は、新しい概念を構成したり、新しい原理や法則を見いだしたり、また、それらを適用しながら目的に合った解決が求められたりする。場合によっては、新たな知識及び技能を生み出す場合も考えられる。

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第1節 1 (2) ⑤

数学的な表現を用いて表す

数学的に表現することは、事象を数理的に考察する過程で、観察したり見いだしたりした数量や図形の性質などを的確に表したり、考察の結果や判断などについて根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、既習の算数を活用する手順を順序よく的確に説明したりする場面で必要になる。数学的な表現を用いることで、事象をより簡潔、明瞭かつ的確に表現することが可能になり、論理的に考えを進めることができるようになったり、新たな事柄に気付いたりすることができるようになる。

また、数学的な表現を簡潔・明瞭・的確なものに高めていくと、その一方で表現自体は抽象的になる。そこで、算数の学習では、「つまり」と具体的な事柄を一般化して表現したり、「例えば」と抽象的な事柄を具体的に表現したりすることも大切である。考えたことを目的に応じて柔軟に表現することで、考えをより豊かにすることができる。こうした経験を通して、数学的な表現の必要性や働き、よさについて実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

数学的な表現を柔軟に用いることで、互いに自分の思いや考えを共通の場で伝え合うことが可能となり、それらを共有したり質的に高めたりすることができる。表現することは知的なコミュニケーションを支援、また逆にその知的なコミュニケーションによって数学的な表現の質が高められ、相互に影響しながら算数の学習が充実する。

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第1節 1 (2)

○「数学的な見方・考え方」について

事象を, 数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え, 根拠を基に筋道を立てて考え, 統合的・発展的に考えること(小)

事象を, 数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え, 論理的, 統合的・発展的に考えること(中)

算数、数学や他教科の学習を通して「数学的な見方・考え方」は、豊かなものとなっていく。

2, 数学的な見方・考え方

第2章 第2節 2C

○算数では…

(2) 「C変化と関係」の内容の概観

この領域で働かせる数学的な見方・考え方に着目して内容を整理すると、次の三つにまとめることができる。

- ① 伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を考察すること
- ② ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べること
- ③ 二つの数量の関係の考察を日常生活に生かすこと

以下の表は、これらの観点から、各学年の内容を整理したものである。

数学的な見方・考え方	二つの数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりすること		
	伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を考察すること	ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べること	二つの数量の関係の考察を日常生活に生かすこと
第4学年	・表や式、折れ線グラフ	・簡単な割合	・表や式、折れ線グラフ ・簡単な割合
第5学年	・簡単な場合についての比例の	・単位量当たりの大きさ	・簡単な場合についての比例の関係

【現行の評価の4観点】

【数学的な考え方】

日常の事象を数理的にとらえ、**見通しをもち筋道立って考え表現**したり、**そのことから考えを深めたり**するなど、**数学的な考え方**の基礎を身に付けている。(小)

【育成を目指す資質・能力】



【思考力・判断力・表現力等】

(2) 日常の事象を数理的に捉え**見通しをもち筋道を立てて考察**する力、**基礎的・基本的な数量や図形**などの性質を見いだし**統合的・発展的に考察**する力、**数学的な表現**を用いて事象を**簡潔・明瞭・的確**に表したり**目的に応じて柔軟**に表したりする力を養う。(小)

2, 数学的な見方・考え方

第1章 2 (2)

○「数学的な見方・考え方」について

【現行の評価の4観点】 【育成を目指す資質・能力】
(3つの柱)

数学への
関心・意欲・態度

数学的な
考え方

数学的な技能

数量や図形など
についての知識・理解

※現行の評価
の観点としての
数学的な見方
や考え方に置き
換わるものでは
ない。

知識及び技能

判断力・表現力等

学びに向かう力等



3, 数学的活動

小(現)P185
中(現)P15

○「数学的活動」について

平成20年告示学習指導要領(現行)では、「**算数的活動**」として、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動。

※手や身体などを使ってものを作るなどの作業的な活動 など(8つの活動の例示)

平成20年告示学習指導要領(現行)では、「**数学的活動**」として、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む数学に関わりのある様々な営み。

※数や図形の性質などを見いだし発展させる活動 など(重視する3つの活動を例示)

3, 数学的活動

第2章 第1節 1 (2) ② 第2節 2 数学的活動

○「数学的活動」について

事象を数理的に捉えて/数学の問題を見だし/
問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行/
すること。

→「算数的活動」から「数学的活動」へ改めた

「数学的活動」(小)【下学年】

ア「数量や図形を見だし、進んで関わる活動」

イ「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」

ウ「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」

エ「数学的に表現し伝え合う活動」

(小)【上学年】イ→ア、ウ→イ、エ→ウ

3, 数学的活動

第2章 第2節 2 数学的活動

○「数学的活動」の一覧

	数量や図形を見だし、進んで関わる活動	日常の事象から見だし、問題を解決する活動	算数の学習場面から見だし、似た問題を解決する活動	数学的に表現し伝え合う活動
幼児教育→小1	ア	イ	ウ	エ
小2+小3				
小4+小5				
小6→中1	(中学校 第1学年)	ア	イ	ウ

3, 数学的活動

第2章 第2節 2 数学的活動

○ウ数学的に表現し伝え合う活動の留意点

①言葉や図, 数, 式, 表, グラフなどを適切に用いて, 数量や図形などに関する事実や手続き, 思考の過程や判断の根拠などを的確に表現したり, 考えたことや工夫したことなどを**数学的な表現を用いて伝え合い**共有したり,

②見いだしたことや思考の過程, 判断の根拠などを**数学的に説明**したりする活動である。

4, 学習過程

第1章 2 (2)

○ 「学習過程」 について

算数科・数学科では、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程」といった数学的に問題発見・解決する過程を学習過程に反映させることが重要である。

『日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する、という問題解決の過程』

『数学の事象について統合的・発展的に捉えて新たな問題を設定し、数学的に処理し、問題を解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする、という問題解決の過程』

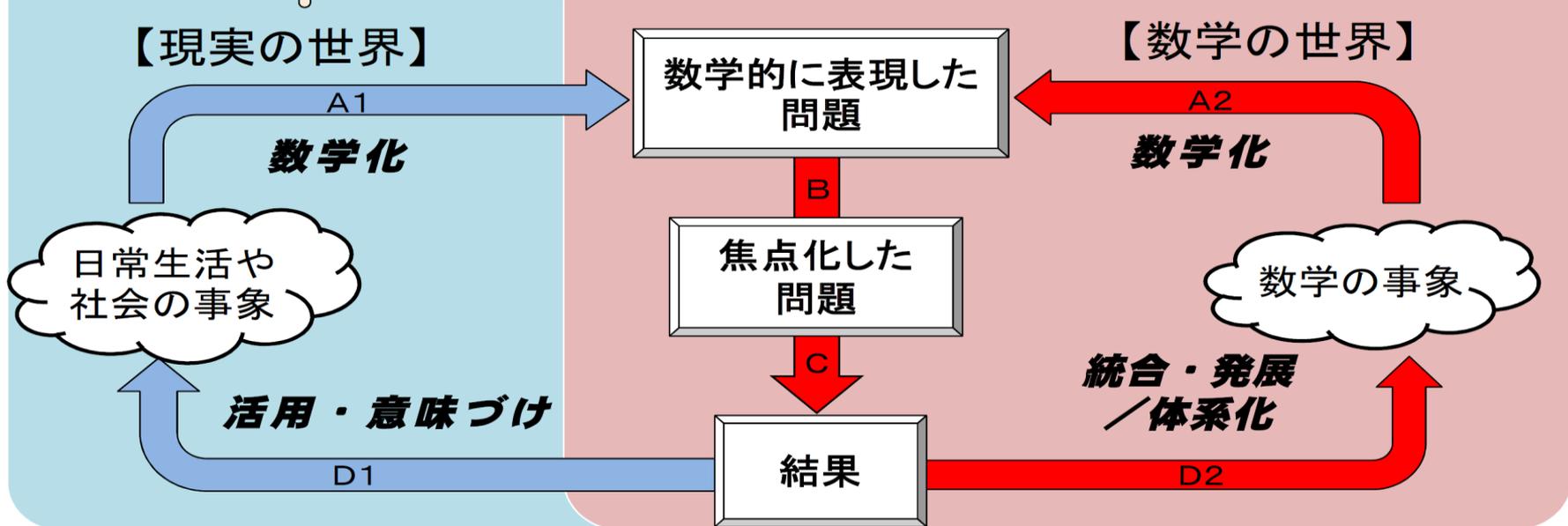
4, 学習過程

第1章 2 (2)

算数・数学の学習過程のイメージ

資料4

算数・数学の問題発見・解決の過程



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

数学的活動

※各場面で、言語活動を充実

※これらの過程は、自立的に、時に協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

※それぞれの過程を振り返り、評価・改善することができるようにする。

学習過程と活動例(A領域:ウ)

第3章 第1節 2 数学的活動

課題

○13-9をどう計算すればいいか

学習の必要感
をもたせて

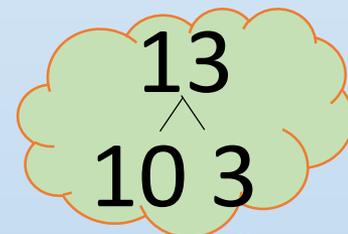
めあて

○くり下がりの計算をしよう

見通し

○具体物(ブロック等)を用いて
○10から9をとる

方法と結果の
見通しを



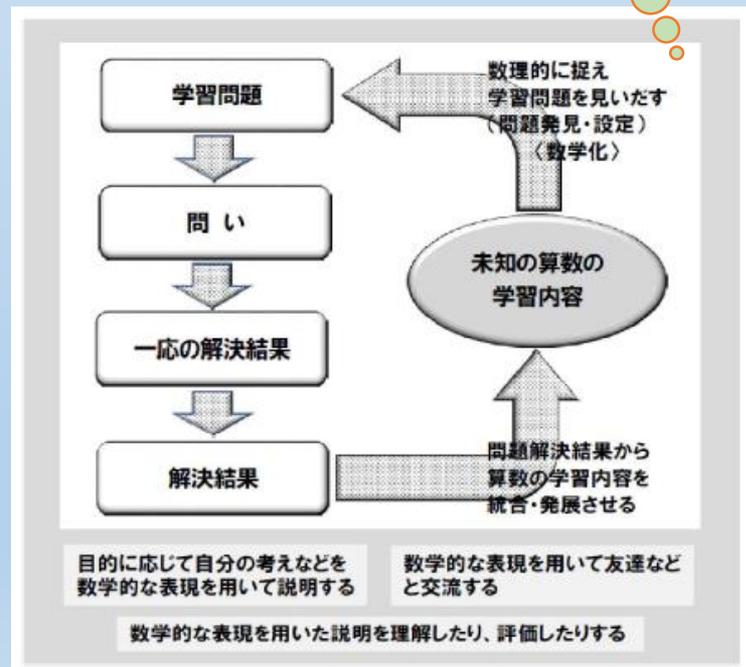
比較
検討

○個別解決、意見交流、
比較検討

子どもたちの言葉
で考えをつなぐ

振り
返り

○学習を振り返る
・10からとるとわかりやすかった。
・十何-1位数も同じようにできる
のではないか



学習過程と活動例(C領域:ウ)

第3章 第3節 2 数学的活動

課題

○のりと消しゴム、どちらがどのくらい重いか

めあて

○重さを数で表す

学習の必要感
をもたせて

見通し

○直接比較? 間接比較?
○長さのときは? かさのときは?

方法と結果の
見通しを

比較
検討

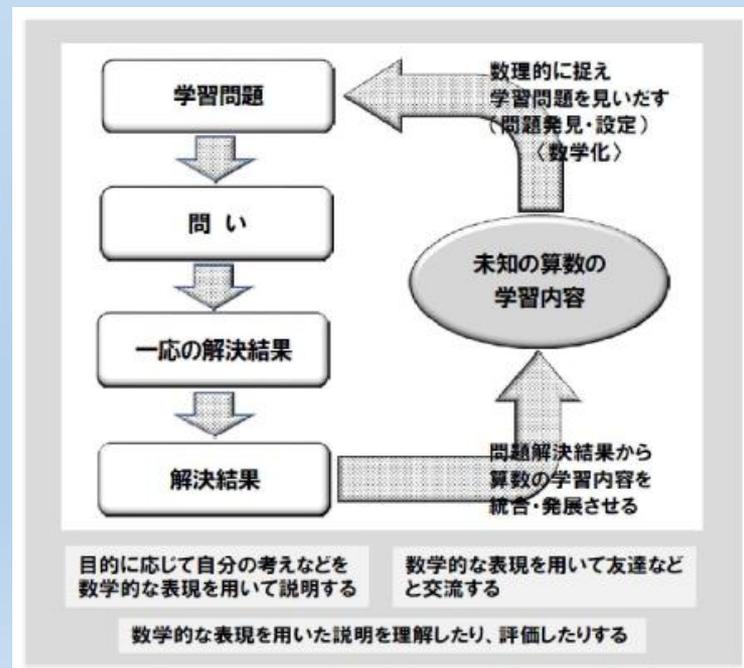
○直接比較→間接比較
任意単位→普遍単位

子どもたちの言葉
で考えをつなぐ

振り
返り

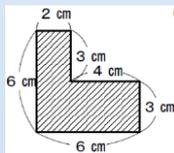
○学習を振り返る
・一定量を基準に数値化できる
・長さ、かさと同じような考え方

量の比較
の仕方
は?



学習過程と活動例 (B領域:ウ)

第3章 第4節 2 数学的活動



課題

○L字型の図形の面積を求める

めあて

○長方形でない図形の面積をどう求めるか

学習の必要原因をもたせて

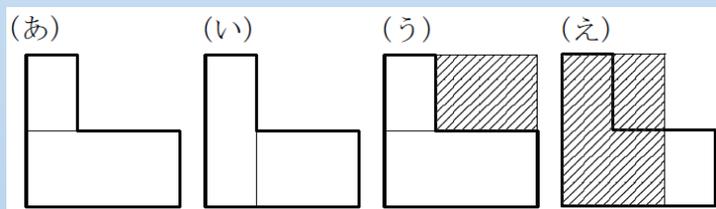
$2 \times 6 + 4 \times 3$?
 $6 \times 6 - 4 \times 3$?
 6×4 ?

見通し

○分割？補充して差し引き？

方法と結果の見通しを

どんな図形なら式で表せる？



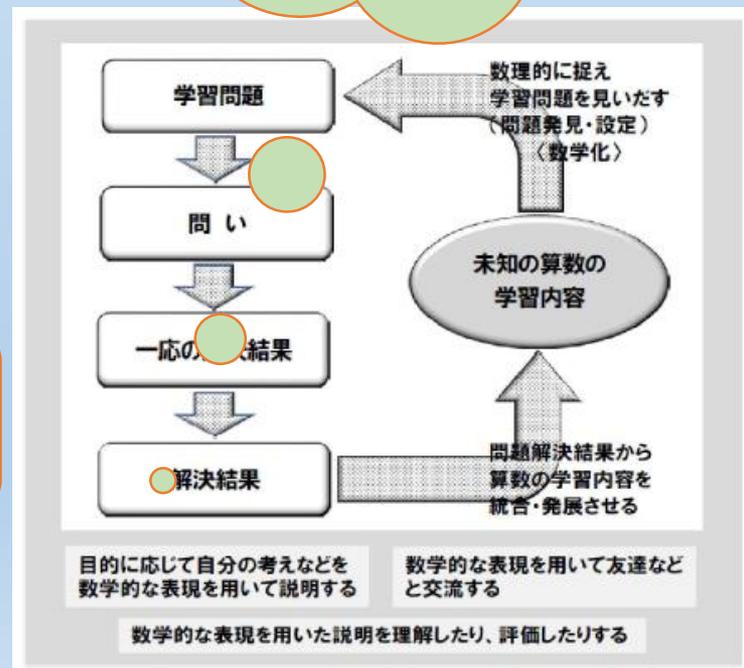
比較検討

○図から式を導く
○式から図を想起する

子どもたちの言葉で考えをつなぐ

振り返り

○学習を振り返る
・長方形の求積法に帰着している。



学習過程と活動例(D領域:ウ)

第3章 第6節 2 数学的活動

課題

○1組と2組、読書をよくしたのはどちら？

めあて

○様々な視点からデータを
読み取る

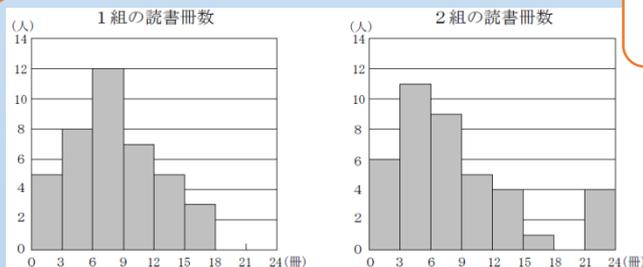
学習の必要感
をもたせて

見通し

○平均値は？中央値は？最頻値は？
○分布状況は？

方法と結果の
見通しを

平均1組8.2冊、
2組8.6冊、本当
に2組が読書を
よくするといっ
ていい？学校図
書館以外は？



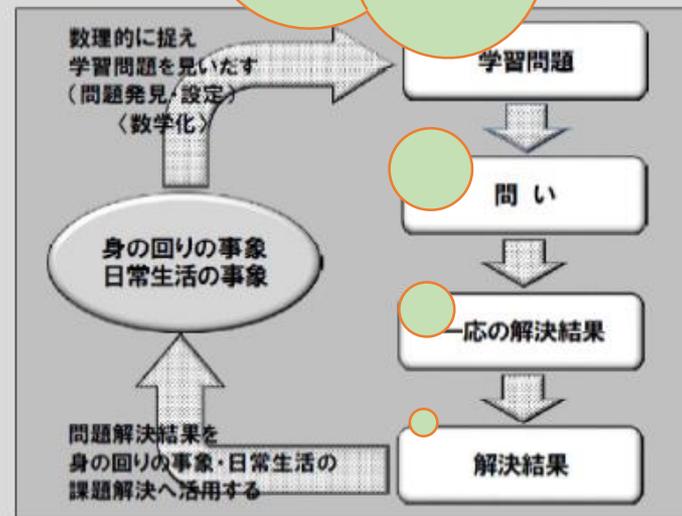
比較
検討

○ある値から得られた考察の妥当性
を検討 → 多面的な吟味

子どもたちの言葉
で考えをつなぐ

振り
返り

○学習を振り返る
・自分たちの問題解決過程を
批判的に検討



目的に応じて自分の考えなどを
数学的な表現を用いて説明する

数学的な表現を用いて友達など
と交流する

数学的な表現を用いた説明を理解したり、評価したりする

5, 主体的・対話的で深い学び

第4章 1 (1)

○①主体的な学び

算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなど

○②対話的な学び

数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それをを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げ深める

5, 主体的・対話的で深い学び

第4章 1 (1)

○③深い学び

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして**思考や態度が変容**する

①主体的な学び・②対話的な学び



③深い学び(**思考や態度の変容**)につなげるか

5, 主体的・対話的で深い学び

1 主体的・対話的で深い学び

授業改善

- ①主体的・②対話的で
- ③深い学びの視点

授業改善

授業改善

6, その他

第2章 第2節 1(2)

○領域について

改訂前

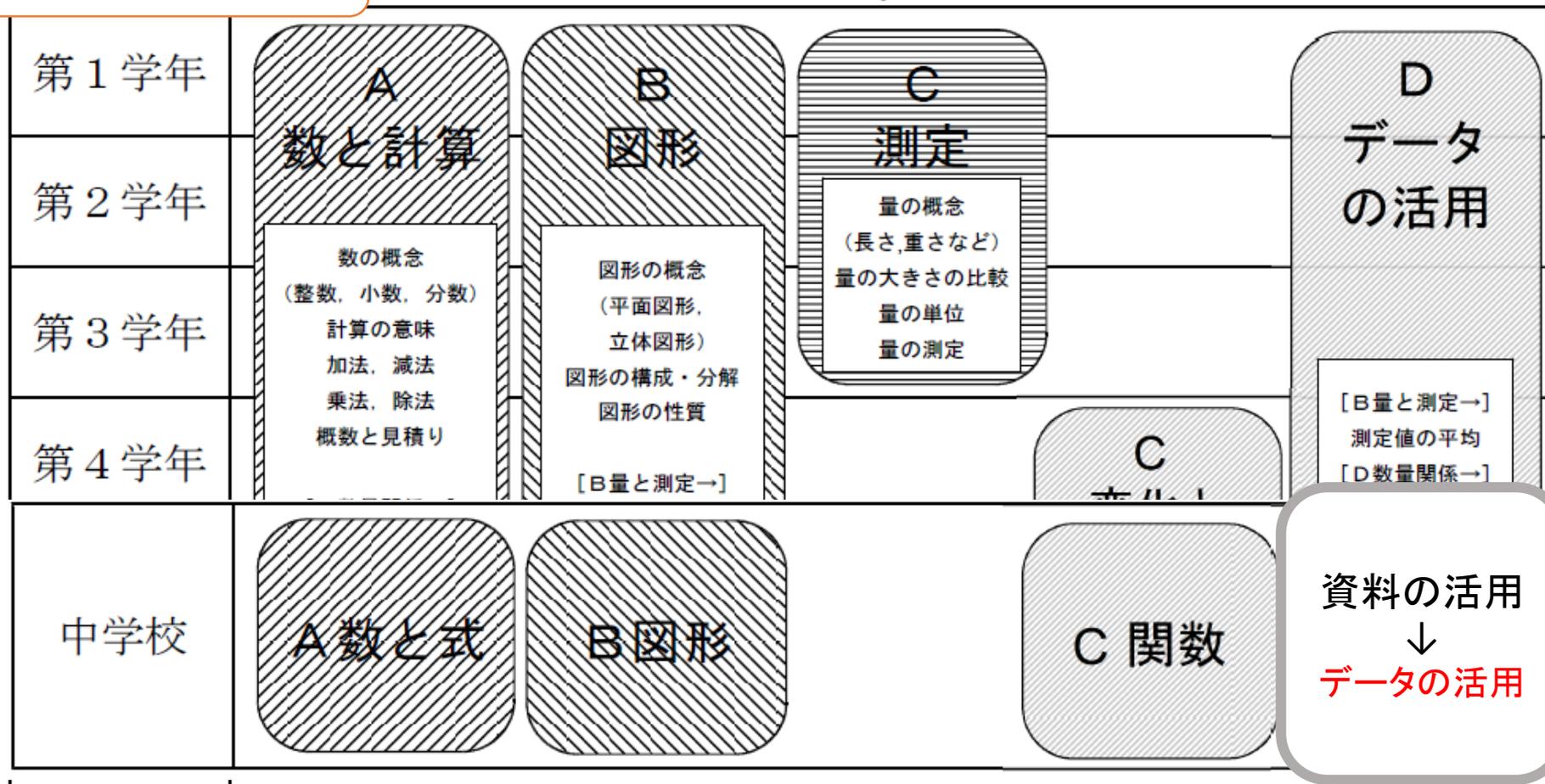
第1学年	式の表現と読み	A	B	C	D
第2学年		数と計算	量と測定	図形	数量関係
第3学年		数の概念 (整数, 小数, 分数) 計算の意味 加法, 減法 乗法, 除法 概数と見積り	量の概念 (長さ, 重さなど) 量の大きさの比較 量の単位 量の測定	図形の概念 (平面図形, 立体図形) 図形の構成・分解 図形の性質	資料の整理
第4学年					
第5学年					関数の考え
第6学年					

6, その他

第2章 第2節 1(2)

○領域について

改訂後



6, その他

第2章 第2節 2 C (3)

○領域の見直しに伴って

C変化と関係(上学年)

変化や対応の特徴を考察すること

二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を割合を用いて比べること

○領域の見直しに伴って

Dデータの活用

統計的な問題解決活動

「問題－計画－データ－分析－結論」の五つの段階からなる統計的探究プロセス統計的な問題解決活動

問題	・ 問題の把握	・ 問題設定
計画	・ データの想定	・ 収集計画
データ	・ データ収集	・ 表への整理
分析	・ グラフの作成	・ 特徴や傾向の把握
結論	・ 結論付け	・ 振り返り

6, その他

第3章 第6節

○領域の見直しに伴って

Dデータの活用

第6学年の目標

適切な手法を選択して分析を行い, それらを用いて問題解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う

Dデータの活用

指導の意義

適切な手法を選択して分析を行い, それらを用いて問題解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う

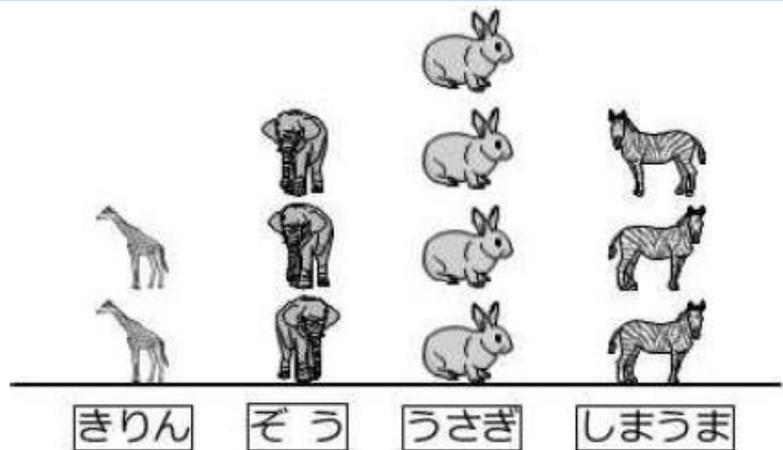
6, その他

第3章 第1節 2D

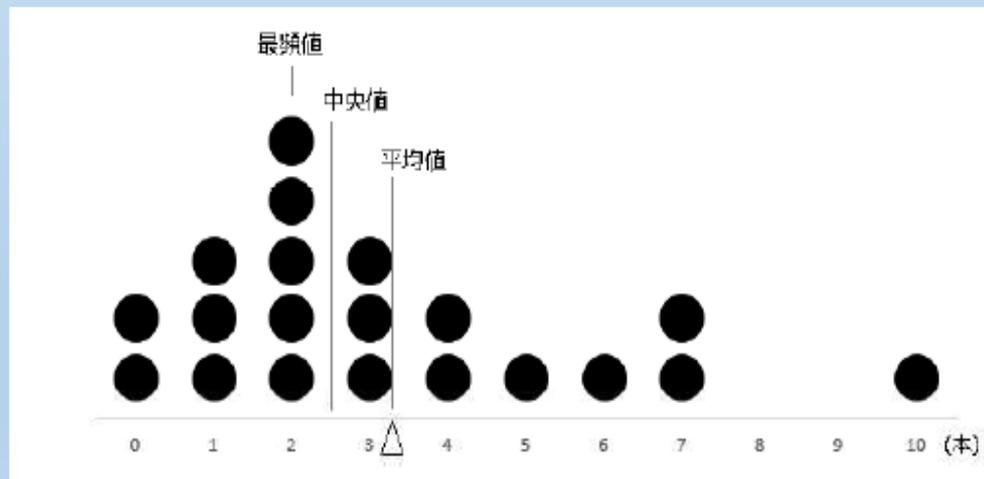
○領域の見直しに伴って

Dデータの活用

第1学年の内容



第6学年の内容



○算数科におけるプログラミング教育

(2) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり，表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため，必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること。また，第1章総則の第3の1の(3)のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には，児童の負担に配慮しつつ，例えば第2の各学年の内容の〔第5学年〕の「B図形」の(1)における正多角形の作図を行う学習に関連して，正確な繰り返し作業を行う必要がある，更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと。

○算数科におけるプログラミング教育

正多角形の学習では「正多角形は円に内接すること」を基に定規とコンパスなどを用いてかくことを指導する。コンピュータを用いると、「正多角形は全ての辺の長さや角の大きさが等しいこと」を基に簡単にかつ正確にかくことができる。また、辺の長さや角の大きさを適切に変えれば、ほかの正多角形もすぐにかくことができる。

辺の長さ分だけ線を引き、角の大きさ分向きを変え、これらのことを繰り返すことで正多角形がかける。正方形は90度向きを変えればよいが、正六角形は何度にすればいいのかを考えていく。線の動きを示す指示として「線を引く」「○度向きを変える」「繰り返す」などの最小限の指示を指定することで、正多角形をかくことができるのである。

算数科ではこのような活動を行うことで、問題の解決には必要な手順があることと、正確な繰り返しが必要な作業をする際にコンピュータを用いるとよいことに気付かせることができる。

6, その他

第1章 2 (3)

○移行措置について (小学校)

移行処置における内容【○: 追加内容、●: 削除内容】

小学校:算数	小3年	小4年	小5年
平成30年度	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語について) ← <u>小6年から</u>	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語について) ← <u>小6年から</u> ○メートル法の単位の仕組み (長さや面積の単位の関係について) ← <u>小6年から</u>	
平成31年度	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語について) ← <u>小6年から</u>	○メートル法の単位の仕組み (長さや面積の単位の関係について) ← <u>小6年から</u>	○メートル法の単位の仕組み (長さや体積の単位の関係について) ← <u>小6年から</u> ○速さ ← <u>小6年から</u> ●分数×整数、分数÷整数 → <u>小6年へ</u>

おわりに

※ここに掲載している資料は、文部科学省が作成した学習指導要領の解説(平成29年6月)を基に、一部を抜粋・加筆して作成しています。